

四日市市におけるデータ連携実証取り組み

データ利活用の目的

四日市市では、校務系データと学習系データの自動連携により教育データを統合することで、教職員や学校・教育委員会が児童生徒の成績や日常所見をリアルタイムで視覚的に把握できる仕組みを構築し、業務効率化やきめ細やかな指導・個別最適な学びの支援を目指します。

四日市市では、多角的に子ども一人ひとりの姿や課題を把握し、さらにきめ細やかな教育を推進しており、データの利活用により日々の指導・支援に活かすことを目的とします。

C4thで蓄積された名簿データを「百問繚乱」と「スクールライフノート」に日々バッチで自動連携させます。

「百問繚乱」の採点結果や「スクールライフノート」の児童生徒が入力した心の健康データや学びの振り返りを、C4thのダッシュボードに集約し表示させます。

この仕組みにより、児童生徒のあらゆる学習状況や生活・学習への姿勢がダッシュボードで複合的に可視化され、教職員や教育委員会が把握・分析が可能となります。

これらを踏まえ、クラス・学校・学年・自治体単位でのデータ俯瞰や分析を通じて、児童生徒一人ひとりに最適な指導・支援につなげていきます。

